言語資料としての聖書の一断面

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 大阪市立大学文学部 公開日: 2024-09-09 キーワード (Ja): インド・ヨーロッパ語, 言語学, 文法上の一致, 『ルター聖書』, ドイツ語学, 統語論 キーワード (En): 作成者: 浜崎, 長寿 メールアドレス: 所属: 大阪市立大学
URL	https://ocu-omu.repo.nii.ac.jp/records/2005303

In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University marge to Osaka Metropolitan University

Title	言語資料としての聖書の一断面
Author	浜崎, 長寿
Citation	人文研究. 36 巻 10 号, p.663-686.
Issue Date	1984
ISSN	0491-3329
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学文学部
Description	岸田晩節教授退任記念号

Placed on: Osaka City University Repository

Osaka Metropolitan University

言語資料としての聖書の一断面

浜　崎　長　寿

1.　本稿は，ここ数年にわたって書き続けてきた拙稿「Nominativ か Akkusativ か？」(人文研究29,8; 30,8; 32,3) および「„Wer sagen die Leute, daß ich sei?“ の語法」(人文研究33,8; 34,9) の概説的まとめともなるべきものである（ごく簡単な箇条書き風のものは *Seminarium* 第4号（セミナリウム刊行会，1982年）に「„Wer sagen die Leute, daß ich sei?“ の語法一覚え書」として示した)。参照箇所指示のために，以下，前者を NA., 後者を Wdaß. と略記する。

従来の，ごく概念的な分類でいえば，中国語は孤立語，日本語は膠着語，ドイツ語，英語等，印欧語は屈折語ということになる。このいわゆる屈折語である印欧語族に属する諸言語には，時代によりその程度の差こそあれ，「文法上の一致 (grammatische Kongruenz)」という煩瑣な現象があって，性・数・格・人称その他にわたり，変化の上での整合が要求される（その概略は，現代ドイツ語に関して Der Große Duden Bd. 9, ***Zweifelsfälle der deutschen Sprache*** の „Kongruenz“ の項に，27頁にわたって提示されており，本稿で取り扱う事柄の多くは，その項目の最後に近い分類番号 XI. Kongruenz im Kasus beim Akkusativ+Infinitiv［普通わが国の文法用語で「不定詞つき対格」という：accusativus cum infinitivo］und beim Gleichsetzungsakkusativ の項に述べられている問題に関するものである。ただし，同書のその項，384頁左の Spalte 下から 7～8 行目の例文 „Er hieß ihn einen anständigen Mann.“ には，あとに sein を付けなければならない。ミスである)。

ただ，その「文法上の一致」の煩わしさの度合には，同じ印欧語の中でも言語と時代によってかなりの差がある。聖書を主として本稿に引用した諸言語の例文に照らしてみれば，その事情の一端が知られるであろう。上記の問題については，聖書以外にも数々引用した書物があるが，このキリスト教の「聖書」は，世界で最もよく知られた書の一つであり，各言語への翻訳の数からいっても，これに匹敵するものはまず無いと言ってさしつかえないと思われる。同じ内容を表現するについて，時代と地域により，どのような言語

上の差異があるか，（或る訳書の表現が他にどのような影響を及ぼしているか等）を知る上で，言語資料としても貴重な「書物」なのである。

2. ドイツ語訳「ルター聖書 (Lutherbibel)」の新約，ルカ伝 (Lc.) 9, 20 は次のようになっている（*Jubiläumsbibel* 1964 より）Er aber sprach zu ihnen: Wer saget ihr aber, daß ich sei? Da antwortete Petrus und sprach: ***Du bist der Christus Gottes***!

この箇所は，日本聖書協会の1954年改訳では次の如くである：彼らに言われた，「それでは，あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った，「神のキリストです」。

ギリシア語原典(→7頁)やラテン語の Vulgata 訳を見ると，この最後の所は Akkusativ の述補語 (Duden Grammatik でいう Gleichsetzungsakkusativ) だけでペテロが答えているので，逐語的にドイツ語で言うならば „[den] Christum [des] Gottes“，日本語では「神のキリストと」となるべきところである。明治時代の日本語訳は，おおむね「神のキリストなり」であるが，それ以前のベッテルハイム (Bettelheim) 聖書では，「彼得對日，上帝之基督……ペテロコタヘテイハク，**カミ**ノクレスト」とだけ記されている (28頁)。どちらかといえば，この方が無難である。

ひとくちに「ルター聖書」といっても，（ルターの生前も，またその没後にも）大筋は守りながら，細部にわたっては種々の改変があり，今世紀に入ってから出版された幾多の「ルター聖書」も，それぞれに小さな違いが認められる。しかし上記の箇所は一貫して „……/da antwortet Petrus vnnd sprach/du bist der Christ Gottis/……“という，最初の「九月聖書 (1522. *Septemberbibel*)」の線を守り通している。ルター聖書以外でも，彼以後，ギリシア語原典や Vulgata と異なって，この箇所を完全文で表わしている聖書は，ルター訳を参考にしている可能性が大きい。

ドイツ語以外でも，たとえば英訳聖書の Tyndale(1534), Cranmer(1539), Geneva (1557) ではそれぞれ thou arte the Christ of god/thou art the Christ of God/Thou art the Christe of God である。一方，ルターにさきがけること150年近い Wiclif の訳 (1380) では the crist of god であり，また，後のものでも Rheims(1582)や Authorised Version (1611)では The CHRIST of God; The Christ of God だけになっている。前記三者の当該文章表現はルター訳の影響を受けている可能性がある。デンマーク語訳でも1524年（→27頁），1550年のものは同様である。

もっとも，ルター以前にここを完全文で訳したものが皆無というわけではない。たとえば，ルターより千年以上の昔，5世紀のラテン語 Vulgata よりも古い Ulfilas のゴート語訳（4世紀のもので，ゲルマン語系では最古，世界の聖書翻訳史上でも古さでは有数のものである）で，既に „Þu is Xristus, sunus guþs.“ となっているし（文献A 5），また，1478/79年の Mittelniederdeutsch 訳のいわゆる *Die Kölner Bibel* (*De Keulse Bijbel*) でも Du byst...〔Christus を省略表記であらわしてある〕dye sone godes という文である（→22頁）。

3. ところで，ルター以外をも含めて，ギリシア語原典の Lc.9,20（ただし，20など節までわけて標記するようになったのは近世に入ってからのことで，ルターの生前にも，章の表示はあるが，節にまで分けてはいなかった）と異なるこのような文章表現が行われるについては，次のような事情がある。

「共観福音書」といって，新約聖書のうちマタイ，マルコ，ルカの3福音書には，イエスにまつわる諸事蹟がヨハネ福音書に比べて著しく輻輳して出てくることがあり，上記のイエスと弟子達の問答も，ほぼ同じ内容でマタイ（Mt. と略記する）16，13—16；マルコ（Mc. と略記する）8，27—29；ルカ（Lc. と略記する）9，18—20に記されている。（文献A29より）

Matth. 16, 13-20 14, 1-2; 10, 2a; 18, 18	Mark. 8, 27-30 6, 14-16; 3, 16	Luk. 9, 18-21 9, 7-9; 6, 13b-14a (nr. 146 9, 10b-17 p. 205)
(nr. 155 16, 5-12 p. 227) 13 ⌐Ἐλθὼν δὲ ὁ Ἰησοῦς εἰς τὰ μέρη Καισαρείας τῆς Φιλίππου ἠρώτα τοὺς μαθητὰς αὐτοῦ λέγων· τίνα ⊤ ⌐λέγουσιν οἱ ἄνθρωποι εἶναι⌐ ᵒτὸν υἱὸν τοῦ ἀνθρώπου; 14 οἱ δὲ εἶπαν· □οἱ μὲν ⌐Ἰωάννην τὸν βαπτιστήν, ἄλλοι δὲ Ἠλίαν, ἕτεροι δὲ Ἱερεμίαν ἢ ἕνα τῶν προ- φητῶν. 15 λέγει αὐτοῖς ⊤· ὑμεῖς δὲ τίνα με λέγετε εἶναι; 16 ἀποκριθεὶς δὲ Σίμων Πέτρος εἶπεν ⊤· σὺ εἶ ὁ χριστὸς ὁ υἱὸς τοῦ θεοῦ ⌐τοῦ ζῶντος⌐.	(nr. 156 8, 22-26 p. 225) 27 Καὶ ἐξῆλθεν ὁ Ἰησοῦς καὶ οἱ μαθηταὶ αὐτοῦ εἰς ⌐τὰς κώμας Καισαρείας⌐ τῆς Φιλίππου· καὶ ἐν τῇ ὁδῷ ᶠἐπηρώτα τοὺς μαθητὰς ᵒαὐτοῦ λέγων ᵒ¹αὐτοῖς· τίνα με λέγουσιν ᶠοἱ ἄνθρωποι εἶναι²; 28 οἱ δὲ ⌐εἶπαν ⌐αὐτῷ λέγοντες⌐ ⌐[ὅτι] Ἰωάννην τὸν ⌐¹βαπτιστήν, ᶠκαὶ ἄλλοι³ Ἠλίαν, ἄλλοι δὲ ⌐¹ὅτι εἷς τῶν προ- φητῶν⌐. 29 ⌐καὶ αὐτὸς⌐ ⌐ᶠἐπηρώτα αὐτούς³· ὑμεῖς δὲ τίνα με λέγετε εἶναι; ἀποκριθεὶς ⊤ ὁ Πέτρος λέγει αὐτῷ· σὺ εἶ ὁ χριστός ⊤.	18 Καὶ ἐγένετο ἐν τῷ εἶναι ⌐αὐ- τὸν ᵒπροσευχόμενον κατὰ μόνας ⌐συνῆσαν αὐτῷ οἱ μαθηταί, καὶ ἐπηρώτησεν αὐτοὺς ⊤ λέγων· τίνα με ⌐λέγουσιν οἱ ὄχλοι⌐ εἶναι; 19 οἱ δὲ ἀπο- κριθέντες εἶπαν· Ἰωάννην τὸν βαπτιστήν, ἄλλοι δὲ Ἠλίαν, ⌐ἄλλοι δὲ ὅτι προφήτης τις τῶν ἀρχαίων ἀνέστη⌐. 20 εἶπεν δὲ αὐτοῖς· ὑμεῖς δὲ τίνα με λέγετε εἶναι; Πέτρος δὲ ἀποκριθεὶς εἶπεν· τὸν χριστὸν ⊤ τοῦ θεοῦ.

ところが，前二者では当該箇所のペテロの答が，原典でそれぞれ *σὺ εἶ ὁ χριστὸς ὁ υἱὸς τοῦ θεοῦ τοῦ ζῶντος.*（あなたこそ，生ける神の子キリストです）/*σὺ εἶ ὁ χριστὸς*（あなたこそキリストです）という完全文であるのに対し，ルカ9，20では，ただ単に Akkusativ で *τὸν χριστὸν τοῦ θεοῦ*「神のキリストと」とだけ記されているのである。これは直前のイエスの問い „*ὑμεῖς δὲ τίνα με λέγετε εἶναι;*“「だがお前たち，お前たちは私を誰であると言うか（逐語的にドイツ語で言えば Ihr aber, wen mich sagt [ihr] sein？となる）」に対する応答で，イエスの問いは3福音書とも全く同じ文言であるのに，この Lc. 9, 20末だけが，上記 *τὸν χριστὸν τοῦ θεοῦ*（*λέγομεν εἶναι σε* [wir sagen sein dich] が補われるべきである）という述補語だけの答になっている。

Lc. 9, 20 末を，上掲の原典と異なり，„Du bist...“ という訳し方をしている場合は，他の 2福音書の当該箇所への類推がはたらいたものと思われる（Kölner Bibel, Lutherbibel usw.〔→22〜25頁〕）。

4. さて，ギリシア語原典やラテン語 Vulgata で *τινα με λέγετε εἶναι;*—— quem me esse dicitis？のように，不定詞つき対格（accusativus cum infinitivo）の疑問文になっている前記のイエスの問いは，ドイツ語その他の聖書でどのように訳されているであろうか（→NA. II 7）。

シリアの学者 Tatian の Evangelienharmonie（福音書対観）では，このくだりは Mt. 16, 15 が取りいれられているが，その ahd. 訳は次の如くである：Tho quad her in: ir uuarlicho **uuen** mih quedet uuesen？（現代ドイツ語でいえば…wen mich sagt [ihr] sein？）

以下にドイツ語訳聖書から若干ひろいあげて列挙してみる（→NA II, 7a; 7c; Wdaß 2; Wdaß. 5〜8）。末尾添附の諸文例をも参照していただきたい。

wen sagt ir mich zesein？（Mentel 1466）

wen sprechit ir mich sîn？（Beheim 1343）

wen seg dy dye ick sî？（Kölner Bibel 1478/79）

wer maint jr der ich sey/（Sigmund Grimm, Augsburg M.ccccc, ij. Freising Dombibliothek. Signatur 73203 Biblia）

wer/sagt yhr aber das ich sey/...（Luther, Septemberbibel 1522）

...was sagt ihr, wer ich sei？（Watch-Tower B. 1971）

wovor haltet ihr mich？（Zinzendorf 1740）

...für wen haltet ihr mich？（Menge 1926）

...für wen haltet ihr mich? (Zürcher Bibel 1966)

..., für wen haltet ihr mich? (Herder Bibel 1972)

ちなみに，前にもあげたゴート語訳では

hvana mik qiÞiÞ visan? (wen mich sagt [ihr] sein?)

これに近いドイツ語訳は Beheim である。Mentel では zu 付きの不定詞 zesein（続け書き）が用いられている。Mittelniederdeutsch（中低独語）の Kölner Bibel（→22頁文例）や，Luther の少し前の S. Grimm（→24頁文例）の訳では関係代名詞による副文が「AをBであるという」のAの役目をしている。ただし，その述補語の役目をする wen は Akk., wer は Nom. である。このように，述補語が Nom. のままである場合と，それさえも Akk. にしてしまう場合と，二つに分れる点に注目しておこう。

Lutherの場合は wer.....das.....という語法である。後の時代には，この語 das は，指示代名詞（冠詞・関係代名詞）das と接続詞 daß とに書き分けられるようになり，後のルター聖書等では接続詞として daß で書き表わしている。

この種の表現では，関係代名詞・指示代名詞 das でなく，接続詞 daß としての用法と考えてよいであろうことは，（少しこみ入っているが）ゴート語訳の他の箇所，Jh. 8, 54 で，接続詞 Þatei (Grimm, ***Deutsches Wörterbuch*** の „dasz" の項冒頭参照）が用いられていることからも推測される。(→Wdaß. 11)

ist atta meins saei hauheiÞ mik, Þanei jus qiÞiÞ Þatei guÞ unsar ist（逐語的には [es] ist Vater mein, der ehrt mich, den ihr sagt, daß Gott unser ist.）私に栄光を与えるものは，（そして）汝等がその方のことを我々の神であると言っているのは，私の父なのである。

ギリシア人とゴート人の混血児である Ulfilas [Wulfila] の訳は，ギリシア語の原典に即したものであって，このように解される。日本語訳聖書では少し違った訳し方をしている。

近代のドイツ語では，聖書に限らず，一般にこの種の表現には接続詞形 daß が用いられるのであるが，Luther 自身が彼の訳文の das をどう思っていたか，今日なら daß と書く方の接続詞と明確に意識していたかどうかについては，なお検討の余地を残しておくべきであろう。

5. 英語では，that は今日にいたるまで，同じ形で上記の両方に用いられる（定冠詞としては簡略形 the である）。ルターがゴート語訳聖書を参照し

た可能性は少いが，中世の西欧世界でいえば，前記のように，彼より150年近く古い英語のウィクリフ訳聖書に既に同じ語法が用いられている。以下，King James の命による欽定訳までの6書を，The English Hexapla (→NA II, 7b) によって書き出してみる。(Lc. 9, 20末)

.../but whom seien ȝe that I am? (Wiclif 1380)

Who saye ye that I am? (Tyndale 1534)

But who saye ye, that I am? (Cranmer 1539)

But whome say ye that I am? (Geneva 1557)

But vvhom say ye that I am? (Rheims 1582)

But whom say ye that I am? (A.V. 1611)

ただし，Middle English では既に，that は中性以外の男性にも女性にも区別なく用いられたので，この Wiclif 以下の that が，果して，ドイツ語の接続詞 daß に当るものであって，hochdeutsch, niederdeutsch の男性 der, 通性 dye に相当する関係代名詞でないかどうかは一考の余地があるであろう。

疑問代名詞で whomという Akk. を採っているのは，原典や Vulgata の *τινα*, quem に通じるものであり，一方，ルターの wer と同じく who という Nom. にしているのは，論理的思考による改変と考えられる。

6. この語法のもとになっている，ギリシア語原典やラテン語 Vulgata の不定詞つき対格構文の1種 „A B sein lassen“ の型で，Aにあわせて Bまでも Akk. にしてしまうという格の一致 (Kongruenz) が非論理的であるということについては，P. Grebe 等の Duden, Grammatik (旧版²1966)5605 の基本文型 (die Grundformen deutscher Sätze) の論理関係を整理した私の図表 (→NA. I, 2) とその説明を参照して頂きたい。G. E. Lessing, *Emilia Galotti* I, 6 末の Marinelli の科白，

Lassen Sie den Grafen dieser Gesandte sein! 伯爵をこの使者になさいませ。

の校正に関して，当の作者 Lessing が，印刷所で勝手に diesen Gesanten (Gesandten) という Akk. に変えられたのに対し，不服の手紙を弟に書き送って以来，今日にいたるまで語学上の論議の的になっている問題の一つである (→NA.V.)

((なお，前記の欽定訳聖書も，後の Revised Version (1903) では Akk. whom を Nom. who に改めて

But who say ye that I am?

となっている。(→NA. II,7b)

ただ，このように，文頭に疑問詞がくる場合，英語のように，格変化の簡略化と，前置詞や語順の意味機能の発達が進んでいる言語では，上記の論理関係以外に，サピア (E. Sapir) のいう drift (定向変化，駆流などと訳される) の作用があることも考えられる (→NA.I, 1)。英語の俗流表現では，

Whom did you see?>Who did you see?

という Nom. 化さえもありうるということで，これは語形上の格の役割を超えた言語現象である。))

7. さらに，日本語で「～は～である」のように言い表わす主述関係を，ドイツ語その他で一般に Nom. 同士 (たとえば du bist Christus; er ist mein Vater のように) で表現するという約束も絶対的なものではない。(er ist anderer Meinung.「彼は違った意見だ。」のような述語的 Gen. の用法は暫くおくとしても) フランス語の c'est moi や デンマーク語の det er mig「[それは] 私だ」では，Kopula で繋がれた述補語は斜格である。

Mt. 14, 26-28(Mc. 6, 49-50)から引用する。(前記，文献 A 29より)

Matth. 14, 22-33 - Mark. 6, 45-52

26 ⌜οἱ δὲ μαθηταὶ ἰδόντες αὐτὸν⌝ ἐπὶ ⌜τῆς θαλάσσης⌝ ⌟περιπατοῦντα ἐταράχθησαν λέγοντες ὅτι φάντασμά ἐστιν, καὶ ἀπὸ τοῦ φόβου ἔκραξαν.	παρελθεῖν αὐτούς. 49 οἱ δὲ ἰδόντες αὐτὸν ⌟ἐπὶ τῆς θαλάσσης περιπατοῦντα⌞ ⌜ἔδοξαν ὅτι φάντασμά ἐστιν⌝, καὶ ἀνέκραξαν· 50 πάντες ⌐γὰρ αὐτὸν εἶδον⌝ καὶ ἐταράχθησαν. ⌜ὁ δὲ εὐθὺς⌝ ἐλάλησεν μετ᾽ αὐτῶν, καὶ λέγει αὐτοῖς· θαρσεῖτε, ⌟ἐγώ εἰμι, μὴ φοβεῖσθε⌞.
27 ⌜εὐθὺς δὲ ἐλάλησεν ⌜[ὁ Ἰησοῦς] αὐτοῖς⌝ λέγων· θαρσεῖτε, ἐγώ εἰμι, μὴ φοβεῖσθε. 28 ἀποκριθεὶς δὲ ⌟αὐτῷ ὁ Πέτρος εἶπεν⌞· ⌟κύριε, εἰ σὺ εἶ, κέλευσόν ⌜με ⌟1 ἐλθεῖν πρός σε⌞ ἐπὶ τὰ ὕδατα. 29 ὁ δὲ εἶ-	

Mt. 14,26 弟子たちは，イエスが海の上を歩いておられるのを見て，幽霊だと言っておじ惑い，恐怖のあまり叫び声をあげた。27 しかし，イエスはすぐに彼らに声をかけて，「しっかりするのだ，**わたしである**。恐れることはない」と言われた。28 するとペテロが答えて言った，「主よ，**あなたでしたか。では**，わたしに命じて，水の上を渡ってみもとに行かせてください」。(日本聖書協会訳)

27の「わたしである」は *ἐγώ εἰμι*; ego sum. また28のペテロの答は，逐

語的には「主よ，もし汝であるなら……(*κύριε, εἰ σὺ εἶ,*……; Domine, si tu es,……) ということで，動詞「である」は前者で1人称単数現在直説法，後者で2人称…に一致している。

「わたしである」という日本語は，原典をそのままうつすことができる。ロマン語の系統では，スペイン語 yo soy；ポルトガル語 sou eu；イタリア語 son/sono io のように，順序は違っても「私」と「である」だけで訳せるものもあるが，フランス語では **c'est moi** という表現になる。「それは私だ」も，「(ここにいるのは) 私だ」も，アクセントの違いはあるものの，同じく c'est moi である点に注意しておこう。ゲルマン系では

be of good cheare/it is y/...(englisch. Tyndale 1526)
Habt zůuersicht: jch bins:...(deutsch. Mentel 1466)
seyd getrost/ich byns/...(Luther 1522)
Houdt moed, Ik ben het,……(holländisch 1973)
Vær frimodige; **det er mig**, frygt ikke! (dänisch 1974)
Vær frimodige; **det er mig**, frykt ikke! (norwegisch 1973)
Varen vid gott mod; det är jag,...(schwedisch 1917)
Havið gott treyst! Tað eri eg! ...(färöisch 1970)
Verið hughraustir, Það er eg;...(isländisch 1973)

などのように，代名詞を追加して表現する。(この形式的な代名詞の要・不要の事情は，たとえば「雨が降る」engl. it rains; dt. es regnet; hol. het regent; dän. det regner; frz. *il* pleut.—lat. pluit; ital. piove などといった，自然現象を表わす非人称構文でも上と同じである。) この Mt. 14, 27 は，ロシア語では это Я でよく，動詞は省略される。これらの例を見てもわかるように，同じ事柄の表現でも，言語によって事情は異なるのであり，同じ印欧語族の中でも，構成にこれだけの異同があることを指摘しておきたい。

代名詞の取捨に限らず，Kopula の人称 (eng. is, dt. bin〔現代デンマーク語 er は人称・数の区別なく用いられる〕など) や語順の違いなども注意すべきであるが，格の問題にたち返れば，フランス語やデンマーク語で moi や mig などになっている語も，時代を遡ればまた事情が異なり，1550年のデンマーク語訳では，まだ det er Jeg (私だ)；Est det du (汝ならば) のように Nom. であったし，1535年のオリヴェタンの仏訳でも ce suis ie であった。ただし，後者は si cest toy で表現されている。(英語でも，日常表

現で It's me. ということがあるが，そのような聖書訳にはまだ遭遇しない。）

8. ゲルマン語系で一般的にいって，たとえばドイツ語で „A ist B." という場合，AもBも Nom. 形をとるということを認めた上で，次の

(a) A B sein lassen.（AをしてBたらしむ，AをBであらせる。）

(b) A B nennen.（AをBという。）

(c) A für B halten.（AをBとみなす，とうけとる。）

A zu B machen（AをBにする）

(d) A als B erfinden（AをBと認識する）

などの語法（→NA. V. 1.3.1）の根底に内在する „A ist B." の格関係がどのように変るか，また変らないかは，われわれ日本語を母語とするものにとって興味ある問題である。

また，その最初の構文A B sein lassen に見合う内容を，疑問文等ある種の文で，daß を用いて表わす „Wer....., daß.....?"の形式については，その daß の正体，各言語におけるこの語法の歴史的消長など，興味ある研究対象である。近来の言語理論に照らしても，後者は，たとえばチョムスキー（Noam Chomsky）の痕跡（trace）理論と関係がある。ただし，この「疑問詞....., daß.....?」の構文に限らず，その周辺の問題も含めた daß の用法，一種の Satzverschlingung（文の錯交）に関して，19世紀以来のドイツ語学の分野で，熱心な資料蒐集と整理，またその理論づけが行われている点は見落してはならない。（→Wdaß. 7.）

上にあげた種々の構成に用いられる動詞は，大体において，作為，使役，願望・思考，知覚・認識，命名，言明などの表現に関するもの（verba sentiendi, verba dicendi etc.）で，ドイツ語でいうならば，lassen, heißen, machen, tun. setzen, stellen, lehren, gebieten, bitten, sagen,（古語 jehan, quedan, waenen, getrûwen), glauben, denken, wollen, wünschen, träumen, rechnen, halten, meinen, achten, betrachten, zweifeln, fühlen, empfinden, sehen, finden, schauen, merken, hören, erkennen, wissen, nennen, taufen, schelten, schimpfen, schmähen, rühmen, grüßen, zeigen, erweisen, schreiben, beschreiben, vorstellen

などがこれに関与する動詞である。もちろん，動詞によって，前記(a), (b), (c), (d)等の各語法への適用の度合，その使用例の頻度等にばらつきはある。時代と地域，言語層，使用の局面等に左右され，また，ギリシア語，ラテン語をはじめ，他の言語の語法の影響の強さによっても差異がある。

聖書のギリシア語やラテン語には，古典時代のそれとは別に，旧約のヘブライ語の語法の影響が多いといわれるが，更にまたその後のキリスト教世界の諸言語に，聖書のギリシア語，ラテン語が濃い影を落していることも事実である。

9. A B sein lassen

A B nennen

の二つは，形式的には明らかに異なった語法であり，そのことは，この二つの語法のいずれに対しても用いられる動詞 heißen に関して，前記，Duden 9. *Die Zweifelsfälle der deutschen Sprache* の „Kongruenz" の項の XI でも例文と共に指摘されている通りである。

しかし他にも，たとえば machen (英 make) に関しても，前記の種々の語法への応用が認められ，これらが相互に全く無関係な語法でないことを示している。たとえば，Mt. 4, 19 と Mc. 1, 17 には，イエスが漁師シモンとその兄弟に対して言うことばとして「わたしについてきなさい。あなたがたを，人間をとる漁師にしてあげよう」というのがある。ルターの Septemberbibel では，この2箇所はともに，

.../ folgt myr nach/ich will euch zu menschenfischer machen/.....

で，„etwas zu etwas machen" としているが，Beheim や Mentel では

Kůmit nach mir, und ich mache ůch **werden** fischêre der lůte.

Kůmet nâch mir! und ich mache ůch **zů werden** fischêre der lůte.

Kumt nach mir: vnd ich mach euch **zewerden** vischer der leut.

...kumpt nach mir: vnd ich mach eúch **zewerden** vischer der leúte.

となっている。Beheim では，werden と zů werden のように，不定詞に zů が付いているか否かの違いがあり，Mentel では zewerden が共にくっついているという事はあるが，いずれにせよ，不定詞つき対格構文 (a. c. i.-Konstruktion) である。

英語では，以前，NA. IV, 1a で示したように，たとえば Geneva Bible (1557) では，Mt. 4, 19; Mc. 1, 17 の間に，

Folowe me, & I will make you fishers of men.——Folowe me, and I wyl make you **to be** fyshers of men.

また，Tyndale Bible の1526年版でも，同様に両箇所で to be の有無という相違がある。

実は，これにもわけがあるのであって，Vulgata 訳が両方とも Venite

post me, et faciam vos **fieri** piscatores hominum. のように，「成る」という不定法 fieri をつけているのに対し，ギリシア語原典では，

[Matth. 4,18-22]	[Mark. 1,16-20]
ἦσαν γὰρ ἁλιεῖς. [19]καὶ λέγει αὐτοῖς· δεῦτε ὀπίσω μου, καὶ ποιήσω ὑμᾶς ⊤ ἁλιεῖς ἀνθρώπων. [20]οἱ δὲ εὐθέως ἀφέν-	ἦσαν γὰρ ἁλιεῖς. [17]καὶ εἶπεν αὐτοῖς ○ὁ Ἰησοῦς· δεῦτε ὀπίσω μου, καὶ ποιήσω ὑμᾶς γενέσθαι ἁλιεῖς ἀνθρώπων. [18]καὶ ⌜εὐθὺς ἀφέν-

のように γενέσθαι（γίνομαι「成る」の第2不定過去不定法）が，Mt. 4, 19 では欠けているのである。原典によらず，Vulgata 訳から重訳した場合には，その違いがならされてしまうというわけである。

これはひとつの例であるが，「～を～であらせる，にならせる」，「～を～にする」という異なった語法に machen, make, フランス語の faire などが共通して用いられうる。

ただし，ドイツ語では，「～を～にする」という場合は „etwas zu etwas machen“ のように，二つめを zu+Dat. で示すのが今日では普通の語法である。

なお，machen, make の用法については，たとえば Lc. 15,19 ; Jh. 6, 15 ; 8,53 ; 10,33 ; 19,7 ; 19,12 などを各聖書で当ってみるとよい。

Jh. 8,53 Whom makist thou thisilf? (Wiclif)

Wen machstu dich selber? (Mentel)

Who du you make yourself out **to be**? (Weymouth)

10. さて，上述のうちで，不定詞つき対格構文による表現の場合，先にも述べたように，不定詞 sein, werden, bleiben などでつながれた述補語の格を Nom. のままにするか，あるいは，これも目的語にあわせて Akk. にしてしまうかという問題がおこる。そして，この場合の格の選択については論者の間に意見の相違があることも前述の通りである。

前項の箇所についても，Mt. 4,19 の方を採用している Tatian の Evangelienharmonie の訳で，

Inti quad hér ín: quemet after mir, inti íh tuon ívvuih úuesan manno fiscara (...tue euch wesen [=sein] Menschenfischer) (β 19, 2.)

という ahd. の表現があるが，これについて，F. Blatz, Nhd. Grammatik, II, 565 に，複数で Nom. Akk. の語形上の区別はできないが，疑いなく Akk.

であるむねの記述があるように，述補語まで Akk. であるべきであるとする傾向は根強い。

さらに目的語が他者でなく，再帰的に sich machen として使うときにまで，歴史的には，述補語を Akk. で表わしている例が少くない。Jh. 19, 8「…，彼は自分を神の子としたのだから，死罪に当るものです。」を Mentel では „...: wann er macht sich ze sein den sun gotz.“ のように，Akk. にしている。もっとも，そのもとになっている Vulgata の当該箇所は a.c.i. でなく，etwas etwas machen 型である：..., quia filium Dei se fecit. 構文は違っても，このラテン語の Akk. が Mentel 訳に影響していると考えられる。

ついでながら，Mentel 訳のそのすぐ後の箇所 Jh. 19, 12 には，「…自分を王とするものはすべて，カイザルにそむく者です。」ということの表現に sich etwas machen 型の文で „Ein ieglicher der sich macht ein kúníg der widersagt dem keyser.“ というのがあるが，この書およびその時代の他の用例にも照らして，この ein k. も Nom. ではなく，Vulgata の „regem“ にあわせて Akk. である可能性が強い。einen>ein の収縮は普通のことである。

11. A B sein lassen 型の不定詞つき対格構文では，B を Nom. にするのが論理的であることは既に述べた。また，Hans von Wolzogen がその小論文 „*Lassen Sie den Grafen dieser Gesante sein.* “(*Lessing*) *Eine Streitfrage aus der deutschen Syntax* (文献 C, 18 [→NA. VIII, 2]) でも言っているように，たとえば

Hilf mir, Christ zu werden. 私に，キリスト教徒になる手助けをしてください。

というときに，Christ を mir にあわせて

*Hilf mir, einem Christen zu werden!

のように Dat. にしてしまうのがおかしいのと同様，Laß mich ein Christ sein! の ein Christ を mich にあわせて Akk. einen Christen にするのは論理的でない。Lessing が前記の *Emilia Galotti* について，Nom. „dieser Gesandte seyn“ の正当性を主張しているのはもっともなのである。

しかし，その Lessing 自身，他では，Sie ließen sich diesen Zwang **einen Anlaß** sein, alles Überflüssige abzusondern./Er ließ Wurzeln *seine Nahrung* sein und **seinen Trank** das frische Wasser./Das laßt

mir **einen rechtschaffenen Advokaten** sein. などのように，Akk. の述補語を用いている例が珍しくない(Blatz, *Nhd. Grammatik* II, 568 の指摘)。

述補語が弱変化名詞か強変化名詞か，あるいは冠詞その他がついているか否か，平叙文か命令文か等々，種々の条件によって，この語法における述補語の Nom./Akk. の選択は左右され，必ずしも論理的に行かないことは，主として NA. VI に引用した文例からも明らかである。古い例では，*Nibelungenlied* (Lachmann のテキストでいって) 1071, 4 の Hageneの科白に，写本によって

lat mich de*r* schuldige sin. C 1145, 4

lat mich de*r* schuldige*n* sin. A 1071, 4

lat mich den schvldigen sin. B 1128, 4

(私にその責めをおわせてください。)

のような Nom.——Akk. の異同がある (→NA. II, 1)。

12. また，A B nennen, heißen の型の語法でも，現今の文法でとりきめられているように，A，B両者とも Akk. にするのは，古くからの絶対的な規則でなく，たとえば，NA. III. 1 にも例を列挙した *Parzival* の

sîn name heidensch was sô hêr

daz man in hiez **den bâruc/der bâruc** (Parz. 13, 20—21)

などのように，述補語の格が Akk./Nom. の間で浮動する例が少くない。

その小論の次の節 (III. 2) にあげたように，Blatz の *Neuhochdeutsche Grammatik*, II, §110, Anm. 1 には

1) direkte Anrede のままのもの : Der nannte mich „mein lieber Klopstock." (Klop.)

2) 弱変化名詞が単独で用いられた場合 : Der Wirt nannte mich Graf und dann Excellenz. (Immerm.)

3) sich nennen の場合

というふうに分類され，この sich nennen については，Akk., Nom. 両様の述補語が例示されていて，それに続く例文で Parzival 276, 21 の Der nennet sich der rîter rôt. がある。再帰的表現では，今日でも Er nennt sich dein/deinen Freund. などのように，Nom. もよく用いられる。(→NA. III. 1/V. 2.13)

ただ，次のように，„man nennt ihn～" が埋め込まれて，So ein Sündenvater(er).....läßt sich nennen den Wallenstein. (Schiller, Ws. Lager

8.) のようになっているときは，sich が er にかかわるだけで，nennen の主語は er でなく，läßt の目的語であり，当の nennen のいわゆる「4格主語」であるべき，省かれた不定の語である。このような場合，Kongruenz の要請の強い印欧語の系統では，どの語に対する格の一致で Akk. den Wallenstein になるのか，ということが問題になる。

聖書の中では，たとえばMt. 23, 8—10 などが同様の表現である。ギリシア語原典も Vulgata も「呼ぶ」という動詞を受動的に使ってあり，ドイツ語の heißen なら，助動詞によらず，それ1語で同様の機能を現代まで残している珍しい語であるが（→ wie sît ir genant? /ich heize Sîvrit [NL.]），その heißen を用いずに sich nennen lassen で訳したものが多い。Mt. 23,10 を例示する。

Und ihr sollt euch nicht lassen Meister nennen;.....(Luther. Jubiläumsbibel)

Auch sollt ihr euch nicht Lehrer nennen lassen;.....(Zürcher Bibel)

Auch Lehrer sollt ihr euch nicht nennen lassen,.....(Herder Bibel)

この Meister, Lehrer は複数であるが，ギリシア語原典では *καθηγηταί* で複数 Nom. ということが明らかである。

英語では，English Hexapla 所収の6書がすべて受動の禁止的命令で訳されている。たとえば，

nether be ȝe clepid maistris...(Wiclif)

Be not called masters,...(Tyndale)

Neither be ye called masters:...(A.V.)

ドイツ語でも，もし heißen や genannt werden によってこの表現をしているとすれば，Meister, Lehrer は Nom. になるであろうが，現実に上にあげた語法による3書の表現では，(先の Schiller の „[er] läßt sich nennen den Wallenstein“ に照らして考えてみれば) lassen の目的語であり nennen の主体であるいわゆる「4格主語」は省かれているのであり，「呼ばれる」主語が Nom. ihr であることとは係わりなく，Akk. euch に合わせて，Meister, Lehrer は Duden 文法でいう Gleichsetzungsakk. ということになるであろう。

ところで，さて，この節の始めに述べたように，そもそも nennen その他，命名・呼称の動詞の Akkusativobjekt に合わせて，述補語まで Akk. にしてしまうこと自体に問題があるのであるから，話は循環することになる。

ただ，言語は論理ばかりで運用されるべきものではなく，感情，慣習，口調その他，種々の要因によって左右される。理屈からいえば，

Er läßt den lieben Gott **einen guten Mann** sein, und läßt ihn alles machen. 彼は一向ものごとに頓着しない，すべて神様まかせである。

などという表現もおかしいはずであるが，このような言いまわしをドイツ人が Nom. ein guter Mann に変えることはありえないであろう。

またドイツ語は，フランス語の laisser と faire のような，使役の意思の強さによる助動詞の使いわけをあまりせずに，lassen を machen の意味でも用いる。A B sein lassen の語法でBを Akk. にするか Nom. にするかは，その使役の意思の有無にもよるらしいが，その点はまた，言語心理学的に興味ある問題で，ドイツ語のネイティヴ・スピーカーによってなおよく調査しなければならない。

なお，英語でも代名詞の場合は，前記 Lc. 9, 18—20 の who/whom のような語形の区別がありうる。しかし，名詞では，前記 (11.) Nibelungenlied の „lât mich der schuldige/den schuldigen sîn“ の M. Armour 訳 (Everyman's library): “Let me be the guilty one.” など，語形の上で Nom./Akk. の違いはない。フランス語でも事情は同様で，同じく印欧語の系統に属するものでも，語形の上での格変化の整約・縮小が進んでいる言語と，そうでないものと，事情はさまざまである。

格の問題に限らず，諸言語・各時代による事情の違いや，言語の性格の差異は，聖書の翻訳についても常に随所に看取されることである。始めにもどって，裏を返していえば，（翻訳は常に原本や，隣接諸言語その他の先例における言語表現の影響をうけがちであるということを留保した上で）言語の比較研究のための資料として，聖書は第1級の地歩を占めるものであると言うことができる。本稿は，文の錯交 (Satzverschlingung) と格の選択というテーマを主として，統語論の面からその実例を若干しめしたものである。

（文献は，本稿に特に示したもの以外，その発行地，年代等については，はじめに掲げた「人文研究」所載小論の文献表を参照して頂きたい。）

以下に紙数の許す限り，各聖書のうちから若干実例を示す。

Lukas Evangelium 9, 18—20の文例

1. ヴルガタ (*Bibliorum Sacrorum* Iuxta Vulgatam Clementinam, nova editio MCMLIX)

18 Et factum est, cum solus esset orans, erant cum illo et discipuli; et interrogavit illos dicens: **Quem me dicunt esse turbae?** 19 At illi responderunt et dixerunt: Ioannem Baptistam; alii autem Eliam; alii vero quia unus propheta de prioribus surrexit. 20 Dixit autem illis: Vos autem **quem me esse dicitis?** Respondens Simon Petrus dixit: **Christum Dei.**

2. Gutenberg (42行聖書 1450—55)

mnes: et saturati sunt. Et sublatū est
quod supfuit illis fragmentoꝝ cophi-
ni duodecim. Et factū est cū solus esset
orās. erant cum illo ⁊ discipli: et inter-
rogauit illos dicens. Quem me dicūt
esse turbe? At illi responderūt et dixe-
runt iohānem baptistā: alij aūt helyā:
alij uero quia unus ꝓpheta de priori-
bus surrexit. Dixit aūt illis. Vos au
tem quem me esse dicitis? Respondens
simon petrus dixit. Cristū dei. At ille

3. Novvm Instrumentum Omne, diligenter ab ERASMO Roterodamo (Basel: Johannes Froben 1516) エラスムスのギリシア語・ラテン語対照聖書

φαγον Ⓒ ἐχορτάσθησαν πάντες, καὶ ἤρθη τὸ περισσεῦσαν αὐτοῖς κλασμάτων κοφίνοι δώδεκα. καὶ ἐγένετο. ἐν τῷ εἶναι αὐτὸν προσευχόμενον κατὰ μόνας συνῆσαν αὐτῷ οἱ μαθηταί, Ⓒ ἐπηρώτησεν αὐτοὺς λέγων, τίνα με λέγουσιν οἱ ὄχλοι εἶναι; οἱ δὲ ἀποκριθέντες εἶπον

rent ante turbas. Et manducauerūt oēs & saturati sūt. Et sublatū est q d'supfuit illis frāgmēto ꝝ cophini duodecim, & factū est cū solus esset orans, erāt cū illo & discipuli, & interrogauit illos dicens. quē me dicūt esse turbæ. At illi rn̄derūt

N & dixerunt

145 ΕΥΑΓΓΕΛΙΟΝ EVANGELIVM

ἔφασαν Ἰωάννην τὸν βαπτιστήν. ἄλλοι δὲ Ἠλίαν, ἄλλοι δὲ, ὅτι προφήτης τις τῶν ἀρχαίων ἀνέστη. ἔφη δὲ αὐτοῖς. ὑμεῖς δὲ τίνα με λέγετε εἶναι; ἀποκριθεὶς δὲ Πέτρος εἶπεν. τὸν ΧΡΙΣΤΟΝ τοῦ θεοῦ. ὁ δὲ ἐπιτιμήσας αὐτοῖς πάλ-

& dixerunt. Ioannē baptiſtam, alij aūt Heliam, alij uero quod unus prophe/ ta de antiquis ſurrexit. Dixit aūt illis. Vos aūt quem me eſſe dicitis? Respon dens Simon Petrus dixit. Christū dei.

4. Novum Testamentum ex interpretatione Theodori Bezae (1642)

18 ET factum est, ut quum ipse seorsim oraret, adfuerint ei discipuli; quos interrogavit, dicens, **Quemnam esse me dicit turba?**

19 Ipsi autem respondentes dixerunt, Joannem Baptistam: alii autem, Eliam: alii vero, prophetam quempiam ex antiquis resurrexisse.

20 Dixit autem eis, Vos vero **quem me esse dicitis?** Respondens autem Petrus dixit, **Christum illum Dei.**

スペイン語 (Spanisch)

5. LA BIBLIA (1622)

phines. IIII. * Matt. 16, 31. Mar. 8, 27.

18 ¶ * Y aconteció, que eſtando el ſolo orando, eſtauá con el los Diſcipulos: y pre guntóles, diziẽdo, Quiẽ dizẽ las compañas que ſoy?

19 Y ellos reſpondieron, y dixeron, Ioã el Baptiſta: y otros, Elias: y otros, que algun Propheta de los antiguos ha reſuſcitado.

20 Y dixoles, Y voſotros quiẽ dezis que ſoy? Entonces reſpondiẽdo Simon Pedro dixo, El Chriſto de Dios.

フランス語 (Französisch)

6. La Bible (Neufchastel 1535)

Et aduint q̃ cõme il eſtoit ſeul en oraiſon/ q̃ ſes diſci ples eſtoiẽt auec luy: il les interrogua/ diſant: Les tour- bes q̃ diſent eſtre qui ie ſuis: q̃ ilz reſpõdirent q̃ dirent: Jehã Baptiſte: q̃ les autres/ Eliah: q̃ les autres/ q̃ vng des anciens prophetes eſt reſuſcite. Et il leur diſt: Et vous/ que dictes vous qui ie ſuis: Simon Pierre reſ- põdit/ q̃ diſt: Le Chriſt de Dieu. Et les menaceant cõ-

C Dact Brupt court d Chriſt commere le petple. Matth 16. C. marc. 8. d.

古高ドイツ語 (Althochdeutsch)

7. Tatian, Evangelienharmonie 90, 1–2

これはルカではなく**マタイ (Mt.) 16, 13 ff.** をとったものであるが，参考のためにあげておく。Lc. 9, 20末尾は，ギリシア語原典は *τὸν χριστὸν τοῦ θεοῦ* と Akkusativobjekt だけであるのに対し，Mt. 16, 16末。Mc. 8, 29末は共に「汝はキリストである」という文で表現されている。

Tatian 90, 1. (Mt. 16, 13—16 より) Quam der heilant in thiu teil thero burgi thiu hiez Cesarea Philippi, inti fragata sine iungoron sus quedenti: *uuenan quedent mih man uuesen mannes sun*? Sie to quadun: andre Iohannem den touffari, andre uuarlicho Heliam, andre Hieremiam odo einan ex prophetis. 2. Tho quad her in: ir uuarlicho *uuen mih quedet uuesen*? Tho antuurtita Simon Petrus inti quad: *thu bist Christ sun gotes lebentiges.*

以下はすべて Lukas Evangelium 9, 18–20.

低ドイツ語 (Niederdeutsch)

8. Die Kölner Bibel (De Keulse Bijbel) 1478/1479.

Ende dat ge=
schyede do hy was tedē allene ende syn iunge
rē warē myt em hy vragede se seggēde Wen
seggē dye schaer dye ick sij ende se antwerden
em ende spraken Iohānes dye doper · sūder de
andere helyam · dye andere Jheremyā off en en
vyt den ersten prophetē vpgestaen Hy sprak
to en wen seg dy dye ick sij Symō petrus die
antwerde eñ sprak Du byst xps dye sone go=
des

高ドイツ語 (Hochdeutsch)

9. Beheim (1343)

[18] Und geschên ist, dô her alleine was betinde, dô wâren mit ime ouch di jungern. Abir her vregite si und sprach: „**Wen sprechin mich sîn di schare?**“ [19] Und si antworten ime und sprâchin: „Jôhannem den toufêre, abir di anderen Heliam, abir di anderen: wan ein prophête von den êrstin ist ûf gestanden.“ [20] Her sprach abir zû en: „ Abir ir,

wen sprechit ir mich sîn?" Und Sîmôn Pêtrus antworte und sprach: „**Christum gotis.**"

10. Mentel (1466)

Vnd es wart gethan do er was bettent allein· vnd sein iungern warn mit im: vnd er fragt sy sagent. **Wen sagent mich zesein die gesellschafft?** Vnd sy antwurten im vnd sprachen iohannem den tauffer: wann die andern helyas: die andern ieremias oder einer aus den propheten· wann einer ist derstanden von den ersten. Wann er sprach zů in. Wann **wen sagt ir mich zesein?** Symon petter antwurt er sprach. **Cristus den sun gotz.**

11. Biblia (Augsburg 1535, Heynrich Steyner)

Vnd es begab ſich/da er allein war vnd ℭ
betet/vnd ſeine Jünger bey jm/fraget er Mat.14
ſie vñ ſprach/Wer ſagen die leẽwte das ich Marci.
ſey? Sie antworten vnnd ſprachen/Sie
ſagen/du ſeyeſt Johannes der Teuffer/
Etliche aber/du ſeyeſt Elias/Etliche a-
ber/es ſey der alten Propheten einer auff
erſtanden. Er aber ſprach zů jhnen/ Wer
ſaget jhr aber das ich ſey? Da antwortet
Petrus/vnnd ſprach/ Du biſt der Chriſt
Gottes. Vnd er bedrawet ſie/vnd gepot/

12. Anton Sorg (Augsburg 1477)

·vnd es ward
getan do er was bettend allein·vnd ſein iun-
gern warn mit im·er fragt ſy ſagendt· wen
ſagen mich die ſcharen der ich ſeye·vñ ſy ant-
wurten im·vnd ſprachē Johannes ō teüffer
Aber die andern Helias·Die andern ieremi-
as·oder einer auß den propheten·wann einer
iſt erſtanden von den erſten/Er ſprach zům·
wen ſagt ir mich der ich ſeye/Symon petrus
antwurt vnd ſprach·Du biſt Criſtus ō ſun
gottes·

13. Anton Koberger (Nürnberg 1488)

Körb der brechung. vnd es ward getan. So er wz
betend allein. vnd sein iungern warn mit im. er
fragt sie. sagend. Wen sagen mich die scharen.
der ich sey. Vnd sie antwurten im. vnd sprachē
Johannes der tauffer. Aber die ander helias.
Die andern hieremias. oder einer auß den pro
pheten. warm einer ist erstanden von den ersten
Er sprach zu im. wen sagt ir mich d ich sey. Sy-
mon petrus antwurt vnd sprach. Du bist Chri
stus der sun gots. vnd er strafft sie. vnnd gebot

14. S. Grimm (Getruckt durch Doctor Sigmund Grim̃ zů Augspurg Jm Jar. M. ccccc. ij.)

xij. kerb d sticklen / Darnach beschah
es / da er allain wz pettend warē bey
jm die junger / Da fragt er si / sprech-
end / wen sprechen die scharen der ich
sey? Vnnd sy habent geantwurt /
vñ gesprochen / Sy sprechē du seyest
joañes baptista / etlich sagent du sey-
est Helias / oder ainer auß denn
altenprophetten sey aufferstanden.
Da hat er jn gesagt / Aber ir / wer
maint jr der ich sey / antwurt Simō
petrus Vnnd hat gesagt / Christus
(od d gesalbt) gots Aber er hat in ge

Petri be
kenung.

15. Luther (1522 Septemberbibel)

Vnd es begab sich / da er ym gepett vnd alleyn war / da waren ett-
lich seyner iunger mit yhm / vnd er fraget sie / vnd sprach / Wer sagen
die leut / das ich sey? Sie antworten vnnd sprachē / sie sagen du seyst
Johannes der teuffer / ettlich aber / du seyst Elias / ettlich aber / Es
sey der allten propheten eyner aufferstanden / Er aber sprach zu yhn /
wer / sagt yhr aber das ich sey / da antwortet Petrus vnnd sprach /
du bist der Christ Gottis /

Matth. 16.
Marc. 8.

16. Zinzendorf (Büdingen 1744)

18 Und es trug sich zu, da er einmal im gebet alleine war,
und niemanden bey sich hatte als seine jünger, daß
er sie fragte, und sagte: vor wen halten mich die leute?
19 Sie aber antworteten und sprachen: vor Johannes den
täuffer; andere aber vor Elias; wieder andere, daß
20 jemand von den alten propheten aufgestanden ist. Er
sprach aber zu ihnen: ihr aber, wovor haltet ihr mich?
da antwortete Petrus und sprach: vor den gesalbten
21 GOttes.

17. Menge (1926)

Lc.[9,18] Es begab sich hierauf, als er für sich allein betete, daß nur die Jünger sich bei ihm befanden; da fragte er sie: **„Für wen halten mich die Volksscharen?“**

[19.] Sie gaben ihm zur Antwort: „Für Johannes den Täufer, andere für Elia, noch andere meinen, einer von den alten Propheten sei auferstanden.“

[20.] Darauf fragte er sie weiter: „Ihr aber **für wen haltet ihr mich?**“ Da antwortete Petrus: **„Für Christus, den Gottgesalbten!“**

18. Jubiläums Bibel *nach Luther* (Stuttgart 1964)

[18.] Und es begab sich, da er allein war und betete und seine Jünger zu ihm traten, fragte er sie und sprach: **Wer sagen die Leute, daß ich sei?**

[19.] Sie antworteten und sprachen: Sie sagen, du seist Johannes der Täufer; etliche aber, du seist Elia; etliche aber, es sei der alten Propheten einer auferstanden.

[20.] Er aber sprach zu ihnen: **Wer saget ihr aber, daß ich sei?** Da antwortete Petrus und sprach: **Du bist der Christus Gottes!**

19. Die Heilige Schrift (Zürcher Bibel, Verlag der Zwingli-Bibel 1966 Zürich) [18] Und es begab sich, als er für sich allein betete, waren die Jünger bei ihm, und er fragte sie: **Für wen hält mich die Volksmenge?** [19] Da antworteten sie und sagten: Für Johannes den

Täufer, andre für Elia, noch andre [meinen], einer der alten Propheten sei auferstanden. [20] Darauf sagte er zu ihnen: Ihr aber, **für wen haltet ihr mich?** Da antwortete Petrus und sprach: **Für den Gesalbten Gottes.**

20. Herder Bibel 1972 Freiburg i. Br.

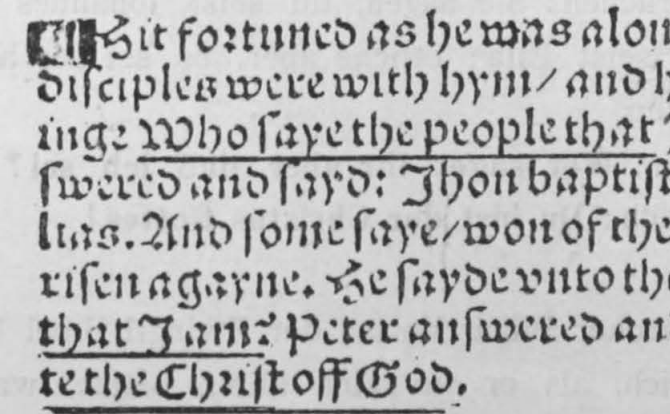
[18] Und es begab sich, als er in der Einsamkeit betete, waren die Jünger bei ihm, und er fragte sie: „**Für wen halten mich die Volksscharen?**“ [19] Sie antworteten: „Für Johannes den Täufer, andere für Elija, wieder andere (meinen), einer der alten Propheten sei auferstanden.“ [20] Da sprach er zu ihnen: „Ihr aber, **für wen haltet ihr mich?**“ Petrus antwortete und sprach: „**Für den Messias Gottes.**“

英 語

21. Wiclif (1380)

[18] and it was don, whanne he was aloone preiynge: hise disciplis weren with him and he axed hem and seide/**whom seien the puple that I am?** [19] thei answerden and seiden Ion baptist/other seien: elie/and other seien a profete of the former is risun/[20] and he seide to hem/**but whom seien ȝe that I am?** symount petir answerid: and seide/**the crist of god**/[21] and.....

22. Tyndale (1534 年版)


Yit fortuned as he was alone prayinge/hys disciples were with hym/and he axed them sayinge: Who saye the people that I am? They answered and sayd: Jhon baptist. Some saye Helias. And some saye/won of the olde prophets is risen agayne. He sayde vnto them: Who saye ye that I am? Peter answered and sayde: thou arte the Christ off God.

23. Geneva Bible (1560 年版)

Mat.16.13. Mar.8.27.

18 ¶*And it came to passe as he was alone praying, his disciples were with him, and he asked thē, saying, Whome say the people that I am?

19 They answered, and said, Iohn Baptist: and others say, Elias: & some say, that one of the olde Prophetes is risen againe.

20 And he said vnto them, But whome say ye that I am? Peter answered, & said, The Christ of God.

¶ For he knewe best his conuenient time which was

24. Authorised Version (1611)

18 ¶*And it came to passe, as he was alone praying, his disciples were with him: and he asked them, saying, Whom say the people that I am?

19 They answering, said, John the Baptist: but some say, Elias: and others say, that one of the old Prophets is risen againe.

20 He sayd vnto them, But whom say ye that I am? Peter answering, said, The Christ of God.

*Matt. 16. 13.

25. デンマーク語 (Dänisch) 1524.

Oc thet er skeed tha hand ene war bethendis/oc discipelern ware met hannom/at spurde hand thennom sigendis/huem siger folken meg at were? oc the svarede oc sagde/the sige thu est Joannes baptista/andre at thu est Helias/andre sige at en prophete aff the gamble er vpstanden/men hand sagde thennom/huem sige i meg at were? Simon Petrus svarit oc sagde Thu est guds christus/oc haud trunit thennom at the

26. スウェーデン語 (Schwedisch) 1871.

18 Och det begaf sig, då Han war allena i sina böner, woro ock några Hans lärjungar med Honom; dem frågade Han och sade: Hwem säger folket Mig wara?

19 Då swarade de och sade: Johannes Döparen; somliga Elias, och somliga, att någon prophet af de gamla är uppstånden.

20 Då sade Han till dem: Hwem sägen då I Mig wara? Swarade Petrus och sade: Du är Guds Christ.

27. 和訳 1858.

ベッテルハイム (Bettelheim)

○耶蘇燕居祈禱門徒偕之。耶蘇問曰、衆言我為誰、
對曰、有言施洗約翰、有言以利亞、有言古先知一人復生。
耶蘇曰、爾曹言我為誰。彼得對曰、上帝之基督。耶蘇戒勿
告人。又曰人子必備受害、為長老祭司諸長士子所棄、且
見殺、三日復生。

モロク ワレ タレゾト イフヤ。コタヘテ イハク、ヲホドコスノ ヨハネト イフモ アリ、イリヤト イフモ
アリ、マタ イニシヘノ サキシル イチミン コタ イキ
ガエタリト イフモ アリ。ヰワレ ガ イハク、ワレカラベ ナンチ
ラワレ タレゾト イフヤ。ペテロコタヘテ イハク、カミノ クル
スト。